

と対応している。このことから、最初に述べた北半球平均気温の低い時代は偏西風の南北流の強い時期に相当し、平均気温の高い時代は東西流の強い時期に相当することがわかる。

半球的な気候変動の地域差を明らかにすることは、空間的に限られた資料から過去の大気大循環を復元しようとする際にひとつの立脚点を与えることにもなり、古気候学的にも重要な意味をもつと考えられる。

(1980. 5. 24)

## 日中友好教育視察団に参加して

太田晴子

1970年頃、まだ日中国交が回復していない時、日本では数少ない中国研究者に依頼して百科事典の「中国」の項10万字余をまとめたことがある。その頃から『北京周報』とか『人民中国』などを購読して社会主義体制の中国には、日本にはない新しい何かがあるのではないかと深い関心を寄せていた。そして一度は自分の目で、広大な中国の自然と人々の暮しを見てみたいと考えていた。そんな折、たまたま付属高校の先生方が出かけられるということで、同級生で中学の先生をずっと続けられている岡道子さんを誘って同行した。

北京、西安、南京、上海の4都市を10日間で回ったのであるが、その間薄曇または晴天のおだやかな天気恵まれた。

中国の人々の暮らし振り、特に夫婦共働きの生活にはたいへん興味があった。通訳・ガイド諸氏の話を経ると中国では共働きが普通であること。子供は職場か自宅近くの保育所に委託するか、年金生活に入った老人が同居して子供の世話をし生活費を補い合っていることなどであった。核家族化の進んだ日本でも多少見習うところがあるように思われた。上海の少年宮(ソ連ではピオニール)は、子供から大人まで一緒になって絵画、習字、音楽、舞踊などを練習していた。内容としては日本の児童館と各種の塾を合わせたものである。小中高校生の課外活動の場として、都市化の進展とともに日本でも大いに研究される余地があるように思われた。一方人民公社の保育園や新村の病院、幼稚園を見学したが、その設備などはまだ不十分で、日本の昭和25年頃、すなわち私の小学生時代を思い出すような状態であった。

南京の東方紅高級中学校(中高一貫教育の5年制)では、授業方法やカリキュラムなどほとんど日本と同じであった。ただ中学一年で「共産主義思想」、高校で「哲学(弁証法的唯物史観)」の講義が義務づけられていた。1925年にキリスト教系の「育群学校」として発足し、「南京第一女子中学校」を経て、現在は男女共学の重点高級中学校である。重点とはエリート養成校ということらしく、他の高級中学校の大学進学率4%に比べ、ここは15%で特に高く、他は実務につくということであった。中国の学校制度は、7才で小学校入学の5年制、中等学校5年、大学4年、専門学校2~3年、師範大学3年制で、日本より1~2年少ない程度ではほぼ同じであるが、進学率は非常に低いようであった。

参観後、そこの先生方と座談会をもった。男女平等をかかげて社会主義国家の建設に励んでいる中国で、夫婦とも同じ学校の教師でその子供が病気になって家庭で保育しなくてはならない場合、父親が休むか、母親が休むかとの質問に「もちろん子供を育てるのは、お母さんですから、母親が休みます」との答を得た。これを聞いて現在の日本とあまり変わらないと思った。日本の共働きをした女性の誰もが悩んだ問題である。日本では保育所探しから始まって、入れない場合は、給料の8割以上をお手伝いさんに支払っても、勤め続けた場合が多い。そして所得税・市民税は給料にもお手伝いさんにも課せられるのである。保育所に入れても伝染性の病気をするたびに、職場を離れる女性も多く、そうすれば当然職場では軽視され、いつまでも単純労働者であり、不況の際は最初に退職を迫られる。特に利潤を追求する民間企業においては、言語を絶するものである。中国でも日本でも特にすぐれた才能をもち、周囲の条件に恵まれた女性が管理職になっている場合はあるが、それはあくまでも目玉商品の存在であり、同程度の能力と体力をもつ男女の場合、中国でも日本でも女性は、家庭の仕事と職場の仕事をし、それも実務ばかりであって、管理面を受け持たないため、過労になり勝ちである。街で見かける女性の服装も紺と緑の人民服ばかりである。今は全てを我慢して社会主義国家の近代化達成のために働いているようであった。

原始時代から今日にいたる人間生活の歴史のうち、かなり細分化された職業生活があり、それに比べ未分化の家庭生活があり、その両者を何の苦勞もなく享受した男性に比べ、その両世界を往きつ戻りつした多くの女性、日本の高度成長の陰に泣いた多くの共働き世帯は、今多くの知恵を結集する必要があるように思われた。これは、日本とか、中国とかいう国家の枠を越えた人間生活そのものに対するみなおし作業ではなかろうか。

(1980. 11. 22. 10回生)